特249
687

治研究會編

事變完遂と國民の新生活

★何故新體制を創らねばならぬか

始

特 249
687

目次

新體制準備會招請に關する近衛首相聲明全文……一
新體制が何故必要となつて來たか
——國民生活と新體制の鍵——……八
新體制は誰が創るべきものであるか
——總力戰と政治の新體制——……一三
新體制は生活にどう響いて來るか
——消耗戰と經濟の新體制——……一七
新體制は事變處理とどんな關係にあるか
——國防國家と外交の新體制——……二三
新體制はどう創らるべきであるか
——東亞新秩序と新體制の意義——……二七

新體制準備會招請に關する近衛首相聲明全文

今や我が國は世界的大動亂の渦中に於て、東亞新秩序の建設といふ未曾有の大事業に邁進しつゝある。この秋に當り世界情勢に即應しつつ能く支那事變の處理を完遂すると共に、進んで世界新秩序の建設に指導的役割を果す爲には、國家國民の總力を最高度に發揮してこの大事業に集中し、如何なる事態が發生するとも獨自の立場に於て迅速果敢且有効適切に之に對處し得るやう、高度國防國家の體制を整へねばならぬ。而して高度國防國家の基礎は强力なる國內體制にあるのであつてこゝに政治、經濟、教育、文化等あらゆる國家國民生活の領域に於ける新體制確立の要請があるのである。

この要請は一內閣一黨派一個人の要請を遙に越えたる國家的要請であり、又何等か特定の政策の爲にのみ必要とされる一時的なる要請でもなく必要に應じて如何なる政策をも强力に遂行し得る爲の恒常的なる要請である。今我が國がかくの如き强力なる國內新體制を確立し得るや否やは、正に國運興隆の成否を決定するものといはねばならぬ。

かゝる新體制に含まるゝものとしては、先づ統帥と國務との調和、政府部内の統合及能率の強化、議會翼賛體制の確立等が擧げられねばならぬ。之等の事項については政府の立場に於ても鋭意その實現を期しつゝある。併しながら更に重要なるは之等の基底を爲す萬民翼賛の所謂國民組織の確立であつて、こゝに準備會を招請し協議協力を求めんとするのも、正にこの問題についてゞある。

この國民組織の目標は、國家國民の總力を集結し、一億同胞をして生きた一體として等しく大政翼賛の臣道を完うせしむるにある。かゝる目標を達成するには、全國民がその日常生活の職場々々において翼賛の實を擧げ得るやうにせねばならぬのである。思ふに從來の如く國民の大多數が三年か四年に一度の投票により選擧に參加するのみを以て、政治と關係する唯一の機會とするが如き狀態にあつては、國民全部が國家の運命に熱烈なる關心を持ち得なかつたのも寧ろ當然といふべきであらう。

國民組織は國民が日常生活に於て國家に奉公する組織なるが故に、それは經濟及び文化の各領域に亘つて樹立されねばならぬ。卽ち經濟に於ても文化に於ても、あらゆる部門がそれ〳〵縱に組織化され、更に各種の組織を横に結んで統合するところの全

國的なる組織が作られねばならぬ。今日經濟文化兩方面において、政策を樹立する當局者が國民の實際活動について眞の理解をせず、又國民の側においても國家の政策決定に無關心であり、かくて取締るものと取締られるものとが對立的關係に置かるゝ如き傾向あるは、正しく萬民翼賛の實を擧ぐべき組織なき處より生まるゝ缺陷である。かく考ふる時、いふ所の國民組織の眼目が那邊にあるかは自ら明白である。卽ちそれは國民をして國家の經濟及文化政策の樹立に內面より參與せしむるものであり、同時にその樹立されたる政策をあらゆる國民生活の末梢に至るまで行渡らせるものなのである。かゝる組織の下に於て初めて、下意上達、上意下達國民の總力が政治の上に集結されるのである。

以上の如き國民組織が完成される爲には一つの國民運動が必要である。元來かくの如き國民運動は國民の間から自發的に盛り上つて來るべきであつて、政府がこの種の運動を企畫指導し、又は之を行政機構化することは國民の自發的總力の發揮を妨ぐるの虞れがあるのである。併しながら現下の情勢はかゝる運動の自然發生的展開にのみ期待するを許さず、且又下からの運動は動もすれば分派的抗爭に陷り眞實の國民運動

となり得ぬ虞れがある。茲に於て政府も亦この運動に對して當然積極的に之を育成指導する必要があるのである。

かく觀じ來れば國民組織の運動は實に官民協同の國家的事業であり全國的なる國民翼賛運動に外ならぬのである。而してそれは單に狹き意味に於ける精神運動ではなく、實に政治理想と政治意識の高揚を目的とするものである。之が爲には廣く朝野有名無名の人材を登用して運動の中核體を組織し、そこに强力なる政治力と實踐力を結集せしむることがこの運動に不可缺の要件となるのである。

かくの如くこの運動は高度の政治性を有するものではあるが、それは斷じて所謂政黨運動では無い。政黨は抑々個別的分化的なる部分の利益、立場を代表することをその本質の中に藏してゐる。勿論部分なき全體はないのであるから政黨がその中に部分的要素を持つといふことのみを以て之を非難するは必ずしも當らぬ。殊に經濟活動の基礎が自由主義の原理にあつた時代に於ては、かゝる政黨の存立もその意味があつたのであつて、我が國に於ても政黨が藩閥官僚勢力に對し民意を伸張したことは之を認めねばならぬ。併しながら同時に政黨の過去に於ける行動が動もすれば我が議會協賛本然の姿から逸脱する憾みの少くなかつたことも亦之を否定すべくもない。

國民組織の運動はかゝる自由主義を前提とする分立的政黨政治を超克せんとする運動であつて、その本質はあくまで擧國的、全體的、公的なるものである。それは國民總力の集結一元化を促進することを目的とするものであり、從つて、その活動分野は國民の全生活領域に及ぶものである。國民組織運動はその故に、假りに民間運動として始められた場合に於ても既に本質は、從來の概念に於ける政黨運動でない。むしろ政黨も、政派も經濟團體も文化團體も、凡てを包括して公益優先の精神に歸一せしめんとする超政黨の國民運動たるべきものである。況んや此の運動が政府の立場に於て爲さるゝ場合には、それは如何なる意味に於ても政黨運動ではあり得ない。苟も廟堂に立つて輔弼の重責に任ずる者は、あくまで全體の立場に立つものであつて、自ら部分的對立的抗爭性をその本質の中に含む政黨運動に從事することは許されぬものと考ふるのである。

國民組織、特に政府に依つて爲さるゝ國民組織の運動が、政黨運動の形を取るべきものでないこと上述の如くであるが、さればと言つて所謂一國一黨の形をとることも

亦到底許されぬ、何となれば一國一黨は一つの「部分」を以て直ちに「全體」となし國家と黨を同一視し、「黨」に反對するものを以て國家に對する叛逆と斷じ、「黨」の權力的地位を恒久化し、黨首を以て恒久的なる權力の把持者となすことを意味するからである。かゝる形態が他國に於て如何に優秀なる實績を示したりとはいへ、その形態を直ちに日本に於て認むることは、一君萬民の我が國體の本義を紊るものと謂ふべきである。我が國に於て萬民齊しく翼賛の責に任ずるのであつて、一人若くは一黨が權力によつて翼賛を獨占することは絶對に許されぬ。萬一翼賛の意思に於て異るものありとすれば、それこそ聖斷に仰ぐべきであり、一度び聖斷の下されたるときは凡ての臣僚が「承詔必謹」の大義に歸一することが日本政治の眞の姿でなければならぬ。

要之新なる國民組織は、國民があらゆる部門に於て大政翼賛の誠を致さんとする國家的且恒常的なる組織である。素より之が完成は至難の事に屬するとはいへ、而も政府は之を以て時艱を克服するに最善の途なりと信ずる。本年二月十一日には畏くも大詔を渙發せられ非常の世局に際し、我々臣民の處すべき道を明かにし給ふたのであるが、政府は玆に聖旨を奉戴し、挺身してかゝる國民翼賛運動の先頭に起ち、現下我が

國の直面する大試煉を突破して、以て皇運扶翼の重責を完うせんとするものである。

新體制準備會は軍、官、民各方面の權威者に參集を請ひ、かくの如き國民組織の一般的構成、國民運動の中核體の組織、それと現存諸團體との調整、國家機構との連繫等につき協議協力を乞はんとするものである。

新體制が何故心要となつて來たか

――國民生活と新體制の鍵――

近代戰は國家總力戰だといふことを我々は屢々耳にして來た。政府もさう敎へて來たし、學者もそれに間違ひないと念を押して保證した。だから我々は、今度の支那事變は國家總力戰に相違ないと信ずるやうになつてゐたのである。

國家總力戰といふことは、政治も經濟も外交も、文化も科學も、その他ありとあらゆる生活の分野が、擧げて戰爭に參加してゐるといふことに他ならない。從つて、今度の事變を戰つてゐる者は、單に戰地にある軍人ばかりではない。日本全國津々浦々に住んでゐる役人も、商人も、學生も、會社員も、敎員も、大工も、左官も、農民もことゴ〳〵く戰爭をしてゐるといふことになるのである。

ところで、今この文章を讀まれやうとする貴方は、昭和十二年七月七日以來ズーと今日に至るまで、貴方の親兄弟、息子さん、親戚の方々、或ひは御友人が戰地で戰はれてゐるやうに、眞劍な張りきつた戰爭生活をして來られたのであらうか。いや、貴

方にさう質問することは失禮にあたるかも知れぬ。實は、この文章を書いてゐる筆者だつて、南京落城後歸國してからの生活を反省してみるといささか赤面に價ひするものがある。ところが、貴方や筆者ばかりではない。東京の銀座や大阪の心齋橋をゾロ〳〵流して歩いゐる人達は一體あれで戰爭をしてゐるつもりなのであらうか。

だが、我々はお互ひに他人のアラ探しをやつて、目くそ、鼻くそを笑ふやうなことは愼しまければならぬ。金があつて金を使ふことが出來るならば、誰でも金を使ふのが面白いであらう。閑があつて金があつて、而も何もすることがなければ、誰だつて銀座や心齋橋をウロッキ廻つてみたくもなるのである。それが必ずしも最高最善の行爲でないとは分つてゐても、闇取引も買溜もついウカ〳〵とやつてしまふやうなこともないとはいへない。勿論、さういふ犯罪や惡德は許さるべきではないが、何もすることがなくて、何んでも出來る環境にあると、人は自ら人間の甘さや弱さに狃れてしまふものなのである。

この我々の氣持をひきたゝせ、勵まし、鞭うち、指導するところに政治の力がある。國家の忠良なる國民として、我々はたゞさういふ他力本願にのみ生きてゐてはな

らないのであるが、これを政治の側から言ふならば、國民のさうした墮落した生活や弛緩した氣分を引上げるところにこそ政治の本來の使命が存在するのである。然るにその政府自體が既に戰爭が始まつてから、四度も內閣が更迭してゐるのである。これはどう見てもあまり感心したことではない。屋臺骨がガタ〳〵搖き出してゐるやうな頼りなさを感じさせる。國民が見て心細い位のものであるから、外國から見たらさぞ危なかつしく見えるであらう。たゞ危なかつしいと思つて呉れてゐる中はまだ日本に同情してゐる證據だからいゝやうなものゝ、同情が憐愍となり、憐愍が侮蔑と變る中には友人も愛想をつかすであらうし、知らぬ他人なら輕蔑して相手にしなくなるのも當然だ。國と國との關係もこれと少しも變らないのである。

では、國の政治の中心となつてゐる大臣はどんな氣持でゐるのだらう——今度は逆に國民の方から政府の心配をしてやらなければならなくなる。あの人達は一體戰地にある兵隊と同じやうな氣持で御奉公をしてゐるのであらうか。あの人達は今度の戰爭が總力戰だといふことを知つてゐるのであらうか。國民の中にさういふ疑問が湧いて來るかも知れない。然し苟も一國の大臣ともなれば、國家のため惡しかれと思つてゐる人間はたゞの一人もゐないと思はなければならぬ。みんな人間としては立派な方ばかりであり、國家の要職を汚すまいとして揮身の努力を傾けてゐるのである。恐らくは、祖國の安危を思つて眠られぬ夜も一再ではないであらうと考へられる。

してみると、このやうに國民の上から下まで、誰も彼もが出來るだけの努力をし、國家の爲になるやうに心掛けてゐるのに、どうも思つたほど成績があがらないといふのはどういふ譯であらうか。段々樂になるべき筈の生活が段々苦しくなる。白い飯が七分搗きになり、七分搗きが外米になり、外米に代用食が這入つて來る、マッチがなくなり、炭がなくなり、肉類がなくなる。さうかと思ふと、同じ總力戰を戰つてゐる家庭でマッチも、炭も、肉類も、卵もふんだんにあるといふところもある。代用食を食べてゐる隣の家では、犬や猫も白米にありついてゐる。こんな馬鹿な話はない。こんな不合理な、合點のいかない總力戰などゝいふものが世の中にあつてはたまらない。

これは總力戰のどこかに缺陷があるに違ひないのである。この謎を解くために、實は我々がこれからその鍵を創り出さうといふのである。

これが、我々のいふ「新體制」なのだ。

だから、新體制といふ鍵は近衛公爵家の金庫の中にある譯でもないし、內閣總理大臣の抽斗の中にあるといふのでもない。實に、それは我々國民の掌の中に握られてゐるのである。我々國民の一人々々が本來の一日本人に還つて、曇りなき魂をもつて此の新體制といふ鍵を創り上げなければならないのである。それ故、新體制は先づ何よりも國民一人々々が創り出した純粹の「日本製」であるといふことが必要である。この出發の考へ方を誤まると、どこまでいつても新體制の納得がいかない。新體制が解らないといふのは、あだかも相手の懷中をあてにしながら自分の飲み食ひの勘定をしてゐるやうなものである。實際、こんな賴りない話はない。

新體制は誰が創るべきものであるか

——總力戰と政治の新體制——

蘆溝橋に一發の銃聲が轟いた時、役場から赤紙と一緒に米味噌の切符が届けられた——といふやうな仕組みに國家が出來てゐたとしたならば、事變がいまどこのやうな經過を辿つてゐただらうか。

それで果して戰爭が終つてゐたかどうかは相手のある戰爭のことだから一概には言へないが、尠くとも我々はもうとつくに外米に慣れてゐるであらうといふことは斷言出來る。戰爭が始まつてゐるのに、戰線にある將兵が日に三度白米の溫い御飯を食べてゐると考へるやうな呑氣な國民は恐らく一人もゐないであらう。白米どころか食ふものも、飲むものもなくて、一晝夜も二晝夜もクリークに水浸しになつて、彈丸にさらされてゐるといふ話を我々はよく聞いたものである。

國家總力戰といふ近代戰に於ては、戰線も銃後も區別がないといふ我々の常識からすれば、假令二日三日食はなくとも寢るところがあるだけでも、銃後の我々は實に相濟まない境遇にあることを感謝し、前線の兵士に對して恥ずかしく思はなければならない筈である。それを今日まで、のんべんだらりと白米生活をつゞけ、食ひたい放題食ひ、飲みたい放題に飲んだ揚句、外米がお腹を壞すとか、代用食はお腹が直ぐ減るとか、どこを押せば一體そんな音が出るのか——といふのも正しく筋の通つた話ではあるまいか。

然しまた一方から言はせると、何も好きこのんで我々は白米を食つてゐたのではな

い。白米があつて、白米を食つてもよかつたから白米にしてゐたのだ。最初から七分搗きにしろ、外米にせよといふならば、我々と雖も日本人だ。兄弟が戰爭してゐると思へば三度の飯を二度にしたからとて毛頭不平をいふつもりはなかつたのだ。最初から外米にして貰へば、却つて諦めも思ひきりもよかつたのではないかといふ――これも亦理屈である。

さて斯うなつて來ると、困つて來る事の起りといふものは、責める人とか責められる人の簡單な心構へや氣分の如何に問題があるのではなくして、もつと深いところに原因があることが分つて來る。

それは、人を動かすものゝ缺陷である。それは、人を動かす人の缺陷ではない。

それを人を動かす「人」の缺陷だとすると、政治を擔當する人間の無能力に責任があることゝなる。內閣の更迭は、實にこのやうな意味で屢々繰返されたのである。だが、いくら內閣が變つてみたところで事態は少しも改善されないし、進歩もしてゐない。政治家がすべてポンクラで、低能だと言つてしまへばそれまでゞあるが、人間の出來に、さう甲乙のあるべき筈はないし、今では誰が出ても同じだといふやうなことが言はれてゐる。

してみると、問題は人間でなくして組織にあるといふことが解つて來る。政治家がいけないのではなくして、政治の形式、組織、體制に缺陷がある。缺陷といふ言葉がいけなければ、政治體制が現代に適用しないと言つてもいゝ。孰れにしても、戰爭が日露戰爭と今次事變とでは正に隔世の感があるのに、政治の方は日露戰爭當時と現代を比較してもみても、その組織、體制、運用に大なる相違を認めることが出來ない。これでは、いかに近代戰が國家總力戰であることが分つてゐても、戰爭に卽應して國家の總力を充分に發揮すべき機能を備へてゐるとは言ひ難いであらう。

今次歐洲大戰に於て、英佛が敗退した原因はいろ〳〵あるであらうが、その最大の原因として擧げなければならないのは、矢張り英佛政治の舊體制であつた。このことは佛國の總理ペタンが率直に認めてゐる。戰爭に敗けてしまつてからその原因が解つたのでは少し遲すぎるが、それにしても決定したことが直ぐ實行に移される獨逸と、決定するまでに閣議でいゝ加減時間を潰して、さてそれを實行に移さうとすると議會で種々擧足をとつて妨害するやうな英佛の政治組織とでは、初めから勝負の程が見え

てゐると言つてもいゝ位である。これではどんな偉い人が出て來ても、仕事の仕様がないであらう。いかに優秀な俥屋さんでも、自動車には到底敵ひつこないからである。

たゞ、この俥屋が優秀であるならば、尠くとも人力車では自動車に對抗し得ないことは悟らなければならない。政治家の能力は、人力車と自動車との區別をハッキリつけることだとも言へる。人力車に對する長年の習慣と愛着とから世の中には人力車以上のものがないといふやうな獨斷や、人力車の車夫が自動車の運轉手よりも經驗に富んで、識見が高いといふやうな他愛ない自信から人力車そのものまでも自動車以上に評價するやうな錯覺を抱いてゐる政治家もないことはない。その人達に言はせると、政治は要するに人なんだといふ。人なんだといふことは、恐らく新體制なんかやつたつて仕方がないといふ意味である。

然しながら、政治が人によつて解決し得ないものをもつてゐることは、既に我々が歴代内閣で經驗したところである。さう言つたからとて、政治は人によつて解決し得ず、組織によつて解決するといふ單純な結論を下すつもりではない。恐らく、新體制といふ組織も亦、これを活用し得る人を得て初めてその効力を發揮するであらう。だ

が今日の課題は、組織に缺陷があるといふことが分つたのであるから、この組織の新體制を出來るだけ早くつくるといふことにしなければならない。人を得て組織をつくり、組織の中に人をつくつて行くことが今後の新體制の任務である。

羅馬は一日にして成つたのではない。完全無缺な新體制が明日から直ぐ出來ると考へるのは早計である。政府のつくつた新體制の据膳を食はうといふのでは國民はあまりに無氣力にすぎる。國民の料理した新體制の据膳に後から坐らうといふ政治家があつたら、彼は正しく國民の敵である。新體制は政府國民の協力の上に生々發展して完成されなければならない。

新體制は生活にどう響いて來るか

——消耗戰と經濟の新體制——

一人の商人は百個の卵を三日間に賣りつくして若干の品不足のために注文に應じきれなかつたとする。他の商人は、百個の卵を七日間に捌ききれずに、若干のローズもの をつくり上げたとする。

この二人の商人の間には利潤率の上に多少の差はあつたが、二人共損はしなかつたからまづ〳〵滿足してゐるといふ狀態である。商賣は水物であるから損をする時もあれば、法外に儲ける時もある。少し位の損ならば一時は凌ぎぬけるといふ覺悟も商人には出來てゐる。とにかく客を大事に、商賣に熱心であれば、いつかは芽をふくであらうし、そこにまた損をして得をとるといふ商賣の面白さもあらうといふ譯である。

ところが、これを國家の立場からみれば、ローズものになつた若干の卵の損は依然として國家の物資の損になつてゐて、どこまで行つても埋合せがつかない。使つただけ物資は減り、失つただけ國力が損じ、總力戰下の消耗率はそれだけ必ず目盛りの上に現れて來るといふ順序である。

甲の品不足を、乙のローズものでで埋合せやうとする統制がこゝから初まつて來る。國家が商人一人當り拾個の卵を必要とする場合には、甲乙兩店の配給は九拾個宛になるであらうから、甲の品不足率は增加し、乙のローズものは少くなる。從つて甲乙の利潤率は接近して來るのである。すると、甲が今日まで孜々として經營に勵んだ努力は一體どうなるであらうか。これはやがて、有形無形の統制の矛盾として表面化して

來る。

統制には實にいろ〳〵の批難がある。それは主として統制技術上の問題であるが、前述のように國家と個人との利害が激しく對立することを許されない戰時下に於ては統制技術上の完全を期する前に、國家の强力なる意志がどん〳〵先行して行く。國家があり得て、初めて個人の生命財產が保證され、個人があり得るのであるから、國家の最高意志に個人が奉仕するのは當然である。然しながら、國家の本來的な意志は、個人を生かし發展せしめるところにあるのだから、今日の統制のやうに個人が不當に苦しまなければならないといふのはあきらかに矛盾であらう。而も統制する人間と雖も同じ同胞であるから、たゞ無暗に商人を苦しめる爲統制をやつてゐる譯ではあるまい。統制者の技術に多少缺くるところがあるとしても、それを待つて居られない火急の必要が國家にあることを我々認めなければならぬ。

そして、國家と個人とがそのやうに深い對立をふくむものでないとするならば、こゝにも亦政治に於けると同樣に、統制者と被統制者といふやうな人間の關係以外に、何等か重大なる問題が潛んでゐるやうに思はれる。

新體制が、單に政治の上ばかりでなく經濟の組織の上にも要請されて來る所以はこゝにある。統制に對する甚しい矛盾を解消するためにも經濟界の新體制がぜひ必要になつて來る。それは商工大臣を何人代えてみたところで、絶對に解決される問題ではない。

古い經濟體制の下で、新しい國家の要求をどし〳〵押せつけやうとすれば、誰が考へてもそこに無理が生じて來る。無理が通れば、道理がひつこむの譬へで、國力をあげて日本が戰爭してゐるといふのに、闇取引だとか買溜めといふ不自然な、不道德な商行爲がそこに發生する。一方、統制の矛盾は、益々擴大されて惡いところばかりが人の目につく、それがまた面白半分に話の種になつて、官僚統制に對する四面楚歌の聲が澎湃として國民の間に擴がつて行く。

筆者は、官僚の肩をもたなければならぬ因緣も義理合ひもある譯ではないが、現在國家の要求してゐるところを見れば、無理と知りつゝ通さねばならぬ官僚統制にも一片同情の念を禁じ能はないものがある。何しろ、國家の死命を制する一大消耗戰が大陸に展開されてゐる時、この目前の事態に即應すべき國家總力を動員することは一日もゆるがせに出來ない。舊經濟體制を近代的總力戰に適應するやう編成替へする前に總力動員が要求されてゐるのであるから、矛盾や不合理が出て來るのも致し方ない。

これを單に「致し方ない」として濟ましてゐるとすれば、これは明かに當局者の無責任に歸せられるのであらう。然しながら、この經濟體制の編成替へを政府當局者に委しておくのでは、國家總力戰における經濟人の國民的義務を十全に果してゐるものとは言ひ難い。のみならず、他人のすることに不滿のあるのは、東西古今を通じて人情の然らしむるところであるから、國民が自ら起つて新しき體制を整ふべきは、買出しに機先を制する商法の誘引から言つても、正しく當を得た處置と言ふべきである。

最小の犧牲をもつて、最大の御奉公をすべき經濟新體制も亦こゝに、國民自らの手をもつて果さるべき契機が存する。

このやうに考へて來れば、新體制が單に政治、經濟の分野にとゞまらず、廣く國家總力の動員に要請されてゐることが一目瞭然とする。

それでは、どうして新體制が事變處理と結びついて考へられなければならないか、

新體制が生れなければならない歴史の必然性を外交の新體制と共に次に述べることにする。

新體制は事變處理にどんな關係をもつてゐるか

――高度國防國家と外交の新體制――

英國の前首相チエンバレンの漫畫を御覽になつた方は記憶されてゐると思ふが、彼は晴雨に拘らず洋傘をもつて歩くので有名な男である。これが英國紳士の身だしなみといふやつなのである。

ところで、日本でも英國通として相當有名な大官だつた某氏が、矢張りチエンバレンと同じやうに四六時間中洋傘を持つて歩くのを英國流の身だしなみと心得てゐる。この先生は英國かぶれのあまり、日本の天候も英國のそれと同じでなくちやならんと考へてゐるらしい。尤もこの頃の天氣豫報では日本の天候もあまりアテにならんが、それでもドウブアの霧がいつ雨になるか分らない英國の天候に較べると、日本のは文字通り天高く馬肥ゆる秋など爽涼の日和は何日も何日もつゞく。先づ洋傘のいらない日が多いと言つてよろしい。

だが、この洋傘先生は日本には案外多いのである。恐らく三十歳以上のインテリで多少とも英國の感化を受けてゐない日本人は先づ稀れであると言つてもいゝであらう。その最大なる要因の一つは中學校の英語教育である。インテリ日本人と稱する人間は、その少年期から青年期の大部分を英語の習得に傾け、英語に追れて生活してゐる。

それからもう一つの影響は日英同盟であらう。世界最強國との同盟に宇頂天になつた日本人は、何十年もの間體裁のいゝ大平洋の番人だつたことを忘れて、英國の知遇にすつかりのぼせ上つてしまつたのである。

だから、今日五十歳前後の、謂はゞ日本の指導階級に屬する優秀なる人物の殆んど大部分が英國に留學してゐる。英國大使館行きの外交官は、外務省の中でも最も優秀な人物が選衡された。最近までの霞ヶ關の主流が連綿として親英派に占められて來たことも、所以なきにあらずである。實にも、七ツの海を支配し、日沒を知らざる大英帝國の版圖は、渺たる東海孤島の田舍者を尊敬させるには充分の實力を備へてゐた。

この英國の感化が、日本の政治、經濟、文化、外交に與へた影響は測り知るべからざるものがある。日本はその維新前後幸ひにも英國の毒牙から逃れることが出來たがそれはたゞ目に見える物の形の上だけのことであつて、その精神的侵略に於ては支那に於ける領土侵略と何等擇ぶところがない。

思想上の自由主義、政治上の民主主義、經濟上の個人主義的資本主義が、いかに日本の傳統的な精神を磨滅せしめるに役立つたか、實に身の毛がよだつやうな恐しさを覺える。英國の對日精神支配が、やがて日本をして米佛等のデモクラシー國家に近づかせ、歐洲戰爭の聯合によつて一層その關係を緊密にせしめる經過を辿つて來た。

今日所謂舊體制と稱せらるゝ政治、經濟、外交、文化の基底たるイデオロギー或ひは指導精神は全くこの英國の精神支配に委ねられてゐると言つても過言ではない。そしてその影響が最も露骨に、あり〳〵と國民の眼にウツつたのは、日本の自主外交、道義外交が親英米的性格を丸出しにする時に於てゞあつた。

そこへ行くと、政治や經濟の體制は一應日本的な外貌を備へてゐるが、政治の民主主義的性格と經濟の個人主義的資本主義とは、猶依然として根強く殘つてゐる。そしてこれら、政治、經濟、外交を指導する中心の思想が英國型自由主義としてまだ清算しつくされてゐない。

こゝに、新體制の思想が、反自由主義的性格を強烈に發散させる原因がある。それは先づ英國が何十年もの間かゝつて日本を十重、二十重に雁字がらめにした精神的呪縛から日本及び日本人を解放させるといふ大きな目標をもつてゐるのである。

話が少しく理におちて來たやうであるが、この英國の支配體制、卽ち中心をなしてゐる自由主義、民主主義の牙城も今やその一角が完全に崩れてしまつた。それは佛蘭西の沒落である。そして英國自身もまた今正に佛蘭西の後を追はんとしてゐるのである。

事變勃發以來、蔣政權を支持して來た英國の狡猾なる煽動と、對日牽制妨碍の數々にはこゝに詳しく述べるまでもなく、讀者の知悉せられるところであると思ふ。蔣政權が重慶の一地方政權となつてからでも、英國は依然としてビルマを通じて援蔣行爲をやめない。

六枚落將棋のやうな支那事變が、今日も猶續けられてゐるといふのは、畢竟するに下手方に上手方並みの助言者が二人も三人もついてゐるからに外ならない。これでは

いくら上手が巧妙に指したところで、一朝一夕に片のつかないのは分りきつてゐる。我々には先づこの知つたか振りをする餘計な口出しを封じなければならない。租借地や租界はもとより、援蔣ルート、九ヶ國條約も、どし〳〵とり除けて早く敵の王樣を四川の山手に雪隱詰めにするか、眞中にひきづり出じて都詰めにしてしまはなければならない。

これが、日本外交の新體制である。敵の助言者にエヘラ〳〵追從笑ひをしながら、ヘボ將棋の相手をしてゐる場合ではないのである。世界の情勢は刻々に變化し、國民の中には外交轉換を要望する聲が日に〳〵昂まつてゐる。

外交は外交官がお世辭を言ひ乍ら遊び半分にやつてゐる時代ではない。それは國民の心の叫びとして強く反映されなければならない。外交は國民の聲である。

外交を國民の聲として强力に轉換させるためには、外交の新體制を確立することが急務である。外交の新體制はこのやうに事變處理と不可分の關係にあるが、この力を强く發動させるものは、結局國內新體制による國家總力の充實蓄積である。

こゝに於て、新體制は政治、經濟、外交、文化を强力に一點に集中凝結せしめる高

度國防國家の建設の具體的な組織であり、それ自身また新しい世界觀に立脚した國民綱領であるといふことが出來るであらう。

高度國防國家といふのは、單なる軍事的意味の國家をいふのではない。國家總力を最も能率的に蓄積し、又發動し得る如き體制下にある國家組織である。その是非は別として、ソ聯、獨逸、伊太利等の如きはこの意味に於て一の國防國家である。一國策の決定に七十餘回の閣議を開催し、六ヶ月を費して猶その結論を見出し得ないやうでは、今日のやうに急激に變化する世界情勢に後れるのは當然である。

新體制はどう創らるべきであるか

―― 東亞新秩序と新體制の意義 ――

事變は一體いつ終るだらうか、といふ考へ方の中には、我々は無意識の中に日清戰爭、日露戰爭、或ひは第一次歐洲大戰の終了の場面を思ひ描いてゐる。

戰鬪行爲が濟んで、日支兩國の間に媾和會議が開かれ、そして同胞將兵が華々しく凱旋して來る。平和の鐘が打出されて、我々は再び戰爭前のやうな生活に歸つて行く

――だが、今度の事變の結末は、斷じてそのやうな定石通りには行はれない。戰鬪行爲が濟んだといふことは、事變が終つたといふことを意味するものではない。日支和平條約が締結されたからとて、それで事變處理が終了した譯ではないのである。

このことを理解する爲には、我々は靜かに事變の辿つて來た經路を回想してみることが必要である。從來の軍鷄の搏ち合ひのやうな戰爭の觀念をもつてしては、いかにしても今次事變の本質を把握することは出來ないであらう。それは、簡單に言へば今度の日支事變は最早勝敗の戰爭でもなければ、征服支配の鬪爭でもない。いづれが次の時代の方則を發見し、その秩序を確立し得るかといふことに最終の解決點がある。若しどうしても戰爭を勝敗の形で片づけてくれといふならば、次の時代の指導原理を發見し、逸早くこれを確立したものが勝利者になるのだといふことになるであらう。

これは東洋に於ける日支事變の本質であると共に、支那事變が單に日支間の鬪爭ではないといふことを暗示してゐる。即ち、事變の窮極の目標は東亞新秩序の建設にあるのであつて、たゞ支那を屈服せしめるといふことで終るものではない。その證據には、事變の進展するにつれて問題は東亞全體に擴大され、佛印や蘭印の問題が事變と不可分の關係に於て處理されなければならないといふことになつて來てゐる。

してみると、今度の事變を通じて次の時代の東洋の方則、指導原理として日本が發見したものは、實に東亞新秩序の建設であつた。それは、東洋の諸國家が、日本も支那も泰國も、佛印も、蘭印も、東洋以外の國々の支配や虐待から解放されることによつて、同じやうに幸福になることが出來るといふ信念の獲得である。そしてこの信念を貫き通す爲に、分りきつたこの方則を理解した者と理解しない者とが鬪つてゐるといふのが、現在の事變の進行の本質である。

支那が日本の發見した東洋の方則が成程正しいといふことが解つた時には、日支間の鬪爭が停止されるであらう。然しながら、それをもつて今の事變の狀態が甚しく變化するやうなことはあり得ない。何故ならば、今度は日支が共に手を握つてこの目的を達成する爲に、第三者に理解させなければならないし、理解しない者があつたり、邪魔をするものがあれば、これと戰爭もしなければならぬからである。

この新しい東亞の指導原理を東亞新秩序の建設と我々は呼んでゐる。これは事變のあるなしに拘らず、事變の終る終らないに拘らず、當然次の東亞の方則となるべきも

のであるから、これが歴史的に必然に東亞の辿らなければならない方向であるといふことが出來やう。

斯く考へて來ると、此の東亞の新秩序に卽應して必要とされる、日本の國家新體制といふものも、事變のあるなしに拘らず、事變終了の如何に拘らず、矢張り歴史的に必然な事象であつて、遲かれ早かれ日本がやらなければならないことであることを諒解されるだらうと思ふ。

竟りこのことをもつて手取早く言へば、東亞の行詰りを打開する爲に東亞新秩序建設の支那事變が起り、日本の行詰りをきり開く爲に事變處理の國內新體制が要求されて來たといふことが出來る。

だから、事變が終る終らないに拘らず國內新體制はどし〳〵進行して行くであらうし、また進行させて行かなければならない。この他には日本の生きる途がないからである。

町の交通を便利にする爲には區劃整理といふことが必要である。區劃整理をしないで交通が便利になればよいが、定まつた道には定まつた數の自動車と馬車と自轉車しか通れないのである。東京——横濱間の京濱道路といふものが出來た當時は、どんな量見でこんな馱々つ廣い道路をつくつたものであらうかと人々は怪んだ。然し今日ではもうそれが狹くて、更にもう一本別の道路が必要とされて來てゐる。時代の變化に應じて、段々新しい體制が必要とされるのは、家庭、商店、會社、國家、いづれの場合でも同じである。そしてそこには又それに應じて一時的な混亂や矛盾を生ずのは致し方がない。たゞこの混亂や矛盾や不公平を最小限度にとゞめて行くといふこと、即ち國民各自の犧牲負擔の平衡を得るといふ爲には、國民各自が自らこの新體制を築きあげて行くといふ積極的な氣持がなければならない。

それはあだかも明治維新に於て、我々の祖父や曾祖父が今日の日本を築いたやうに我々も亦孫や曾孫のために新しい日本を築いてやらなければならない。さういふ積極的な犧牲の精神がなくては、新體制を理解することが出來ないし、又新體制を完成することも出來ない。新體制を政府に委しておくといふのでは、我々は決して孫のための良き祖父たり得ないであらう。これが職域奉公の精神であり、實踐の方針である。

新體制は出來てゐるものではなくて、創り出すべきものである。

新體制は出來てゐるものが正しいのではなくて、出來てゐるものを正しく完成することが國民一人々々の義務なのである。

—二六〇〇・九・七—

408
214

昭和十五年九月十八日印刷
昭和十五年九月二十日發行　（非賣品）

事變完遂と國民の新生活

著作兼發行者　世田谷區深澤町四ノ五二一　塚野晴三

印刷者　京橋區木挽町二ノ一一　長島五郎

發行所　新體制建設國民遊説隊本部
東京市麹町區三年町一番地
電話銀座(57)六三三七番

このパンフレットを讀まれた方は、ぜひお知合ひの方にこれを送つてあげて下さい。

さうすることによつて、このパンフレット一冊が五冊も十冊もの役割を果すのであります。

新體制の心組みは、まづこの小さいことから始めませう。

終